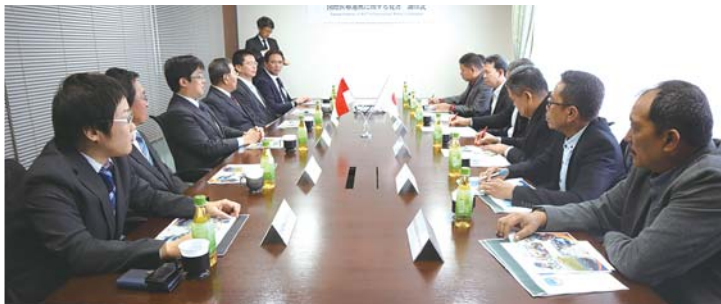


インドネシア

# コラカ県とMOU締結

総合的な医療連携に関する覚書



偕行会とコラカ県の幹部が提携について意見交換を行った



偕行会とコラカ県の関係者

今後、偕行会と同県は連携の詳細について詰めていくことにしている。日本の医療制度が見直される中、偕行会は日本で培った医療ノウハウを生かし、海外で実績を積み上げていきたい考えだ。

中部経済新聞社の  
許諾を得て掲載しております

## 人材育成と病院運営 ノウハウ提供

コラカ県の人口は約30万人。現在、同県最大規模の総合病院を建設中で、8月に一部病棟が完工し、2022年に全病棟の建設が完了する計画。  
アフマド・サフエイ知事

「県外からも多数の診療者を見込んで」と話している。だが、医療スタッフは「県外からも多数の診療者の育成が追い付かず、病院経営のノウハウも乏しいため、同県は偕行会の協力を得ることにした。」



調印式で握手する川原理事長と(左)とコラカ県のアフマド・サフエイ知事

### 偕行会

医療法人偕行会(名古屋市中川区法華、川原弘久理事長、電話052・363・7211)は、インドネシア南東部のスラウエシ州コラカ県と、総合的な医療連携に関する覚書(MOU)を締結した。コラカ県医療スタッフの育成支援や病院経営ノウハウの提供が柱。コラカ県が海外の医療法人とMOUを締結するのは初めて。日本の医療機関がインドネシアの自治体と総合的な医療連携を締結するのは珍しいという。

(倉科信吾)